学校番号	３０２６

令和８年度　（学）グローバル探究科

教科	（学）グローバル探究科	科目	（学）IB歴史 SL	単位数	3単位	年次	2年次
使用教科書							
副教材等	History for the IB Diploma Paper1 The Move to Global War（Hodder Education） History for the IB Diploma Paper2 Causes and effects of 20th Century Wars (Hodder Education) History for the IB Diploma Paper2 The Cold War: Superpower tensions and rivalries （Hodder Education）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

IB History で扱う問いは、多くの日本の高校生が疑問として持ちながらも明確に説明できないものが多く、高校の通常授業では時間の制約上、扱ってこなかったものでもある。しかし、これらの問いに関する事象は現在の国際関係にも大きな影響を及ぼし続けており、各国の利害や価値観、過去と現在が複雑に絡み合って今日にいたっている。問いを探究し、議論するためには詳細な知識が必要であり、綿密なリサーチから得た大量の情報を分析し、統合して解釈する思考力が必要となる。資料の収集・分析を通して、獲得した知識を駆使できる人物になってほしい。

２　学習の到達目標

二つの世界大戦がなぜ勃発したのか、戦争回避のためにどのような試みがなされ、どの程度の効果があったのか、6つの主要概念を用いた分析を通して、思考スキルを鍛える。またチームで協働してリサーチを取り組み、議論を通して知識を構築するプロセスを体験することで社会性スキルやコミュニケーションスキルを獲得する。20 世紀の戦争の中でも最も大規模である第二次世界大戦を分析し、その原因と影響を探究することは、現在の世界が直面している国際関係や紛争の危機などについての理解を深める。世界大戦に参加した各国の立場や正当化の理由、戦争を主導する政治的リーダーや大衆の動き、イデオロギーや経済的な要因など、多様な観点で状況をとらえることにより、国際的な視野を育成することができる。

3　評価の観点及びその趣旨（IB の評価基準に基づく）

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨			
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法
1	世界規模の戦争への動き	事例研究 1. 東アジアにおける日本の拡張政策(1931～1941 年) 1. 拡張の理由 2. 出来事 3. 反応 事例研究 2. ドイツとイタリアの拡張政策(1933～1940 年) 1. 拡張の理由 2. 出来事 3. 反応	・問いに関する必要な知識を獲得するリサーチスキルを身につけているか。 ・獲得した知識をもとに、問いに対する自身の主張を論じることができるか。 ・議論を通して、自身と他者の主張を分析し、自身の主張を再構築することができるか。	【形成的評価】 ・時系列表の作成 ・各国間の相関関係図の作成 ・スライド作成とプレゼンテーション ・ディスカッション 【総括的評価】 ・Paper1 形式の問題 ・Paper2 形式の問題
2	二十世紀の戦争の原因と影響	1. 第一次世界大戦 2. 第二次世界大戦 3. 20 世紀後半の戦争 (各生徒が選択した戦争を取り上げる) ・戦争の原因 ・経緯と結果への影響		

3	内部評価（歴史研究）	1. 内部評価の要件についての説明 ・内容と構成 ・参考文献目録の作り方 ・評価規準 ・スケジュール確認 2. トピック決定とリサーチクエスチョン作成 3. リサーチ及び執筆	・扱う資料の出展、目的、内容における価値と限界を分析できているか。 ・自身が設定した探究課題を分析し、批判的に研究できているか。 ・歴史学者が使う方法論や、歴史学者が直面する課題について理解し、自身の研究を振り返り、考察しているか。	【形成的評価】 ・研究計画書作成 ・中間報告:スライド作成とプレゼンテーション ・各セクションと評価規準についてのディスカッション ・第1稿 【総括的評価】 ・最終稿